



# 日本経済を知る

関西学院大学法学部・大学院法学研究科 教授 金崎 健太郎

2013年に策定された「日本再興戦略」以降、デフレからの脱却と富の拡大を目指し、大胆な金融緩和や財政出動による需要創出、民間投資を喚起するための規制緩和など、いわゆる「アベノミクス3本の矢」を中心とした経済政策が進められてきた。株価や経済成長率などの経済指標が改善を見せている一方で、経済格差や地域格差の拡大、生活の豊かさの実感が持てないこと等、経済の現状や将来についての悲観的な情報も多く、国民の多くが自分の将来や社会保障の持続可能性について不安を抱いている。あふれる情報に不安感だけを高めても何の解決にも繋がらないが、テレビや新聞を含めた多様な情報源から何が正しいかを見極めることは難しく、日々変化を続ける経済を正しく捉え、日本が抱える課題を正確に認識するためには一定の知識と理解が必要であることも事実である。

『日本経済入門』〈講談社現代新書〉(野口悠紀雄／著、講談社、864円)は日本経済の現状と課題を平易な言葉で解説した本である。と

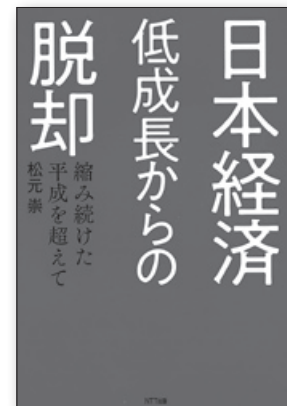


『日本経済入門』野口悠紀雄／著 講談社

かく先入観や固定観念に支配されがちで、仕組みの理解が不足していると誤った認識しがちな経済の現状を、抽象論ではなく具体的データに基づき解説するとともに、日本経済がバブル崩壊以降、解決できてい

ない問題とは何かを明快に示している。物価を上昇させれば経済は良くなる、有効求人倍率の上昇は労働市場改善の証しである、など一見正しいと思いがちな情報も、この本を読むと誤りや誤解が含まれていることに気づくであろう。医療・介護や年金といった将来不安のもとになる重要な制度が抱えている課題もわかりやすく解説されており、経済の現状や日本が現在抱える課題の本質について学ぶための入門書としておすすめである。

『日本経済 低成長からの脱却—縮み続けた平成を超えて』(松元崇／著、NTT出版、2,052円)は、政府の経済政策にも深く関与した著者による、これからの日本経済が成長力を取り戻すための方策について書かれた本である。著者は、世界最低水準の低成長から脱却するためには、これまで保護されてきた中小企業の生産性向上



『日本経済 低成長からの脱却—縮み続けた平成を超えて』松元崇／著 NTT出版

が不可欠であるという。さらに選択と集中の時代に機能しなくなった終身雇用制を改めて労働市場を柔軟なものとする必要があるとあり、そのための先行投資として働き盛りの世代に対して、転職で所得が上がるような支援を行うべきという。全ての企業と国民の一人ひとりが能力を十分に発揮する仕組みに変えていかなければ成長は実現しないという強い思いが読み取れる。